

## ○コデインリン酸塩散・○コデインリン酸塩錠 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】コデインリン酸塩 (U) Codeine Phosphate 【分類】麻薬性鎮咳剤

【単位】○1%散 [10mg/g], ○5mg錠「ファイザー」

【常用量】1回20mg, 1日60mg [適宜増減]

【用法】分3, あるいは頓用

【透析患者への投与方法】便秘が悪化しやすいこともあり, 正常者より少なめがよいであろう (5)

【その他の報告】50%に減量 (3) HD, PD とも可能なら投与を避けるが, 使用するなら低用量から開始して注意してモニター (17)

【保存期 CKD 患者への投与方法】Cr 10mL/min 以上: 減量の必要なし, Cr 10mL/min 未満: 75%に減量 (5)

【その他の報告】GFR 10mL/min 未満では投与を避けるが, 使用するなら低用量から開始して注意してモニター (17)

【特徴】アヘンアルカロイドで呼吸器疾患における鎮咳・鎮静に加え, 疼痛時における鎮痛, 激しい下痢症状の改善に適用される。

【主な副作用・毒性】依存性, 呼吸抑制, 錯乱, せん妄, 気管支痙攣, 咽頭浮腫, 麻痺性イレウス, 不整脈, めまい, 眠気, 悪心・嘔吐, 便秘など

【ka】1.97±1.62/hr (1)

【F】約50% (1)

【tmax】0.5~2hr (1)

【代謝】肝代謝され, 10%がデメチル化されモルヒネになる (U) 代謝には個人差が大きい, 30~40%はグルクロニドとして, 7~9%がノルコデイン, 4~13%がモルヒネとして尿中に排泄 (1) コデインからモルヒネへの変換はCYP2D6が, コデインからノルコデインへの変換はCYP3Aが関与 (1) 主としてUGT2B7, UGT2B4および一部CYP3A4, CYP2D6で代謝 (1) CYP2D6のultra-rapid metabolizerでは活性代謝物のジヒドロモルヒネの血中濃度が上昇して副作用が発現しやすくなるおそれ (1)

【排泄】主に腎排泄, 尿中未変化体排泄率5~15%で, 10%はモルヒネ抱合体として排泄される (U) 【CL】1.80±0.49L/hr/kg (1)

【t1/2】2.5~4hr (U) 2.5~4.2hr (1) 【ke】0.40±0.09/hr (1)

【蛋白結合率】非常に低い (U) 7% (1)

【Vd】3.97±1.20L/kg (1)

【MW】406.37

【透析性】効率的には除去されないと思われる (5)

【TDMのポイント】中毒濃度1.0~8.8μg/mL (1) 【薬物動態】健康人のt1/2は4.04±0.60hr, 透析患者のt1/2は18.69±9.03hrと有意に延長しているが, 全身CL, Vd, 代謝物のAUCなどには有意差がない (1)

【相互作用】

【効果発現時間】鎮痛作用30~45min (U) 【最大効果発現時間】鎮痛作用1~2hr (U)

【効果持続時間】鎮痛作用4hr, 鎮咳作用4~6hr (U)

【備考】筋注120mgまたは経口200mgの効果は筋注モルヒネ10mgに相当 (U)

【更新日】20230620

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。